



^ 13
3364
4



いふわらうらう

早の御平や



あのかんわのりま

まぬのめん平

いひしめら

茶儀

茶儀に政録をこく

目録

家之主たるは法水阿闍梨

寺に居るは教長小僧

勝川樓所々

岩井

茶記

門 へ 13
3364
4

かにある
かどつとに平なる
うもハカ
ま

方子保仁政福光之尺

大正十年八月廿日
本大學出版部

家之在在通 清中何新在
春原中人之名合少以事

歌 一 春在原 吉也弟 同通

少 一 田原所 自是 春人 弟

三 一 春 一 春 一 春

中 新 情 何 所 春 春 春 春 春

中川 ぼり^らの^らの^ら名^なを^を信^{しん}り
あり母^{はは}と奥^{おく}く女^{むすめ}を^を和^わ
としあり^らの^ら女^めを^を和^わとあり
— あり母^{はは}出^でる^るあり
毒^{どく}人^{にん}まおとら^らき^きたま^たま
如^に新^{しん} 陸^{りく}川^か 保^ほ子^こ 藤^{ふじ} 女^{むすめ}
お出^で入^いり^りとありありありありあり
保^ほ子^こ 藤^{ふじ} 女^{むすめ} 陸^{りく}川^か
さめ入^い出^で入^いる^るあり
まじ^じ 母^{はは}なり^りとありあり
— ありありありありあり
あり— 父^{ちち}より^{より}母^{はは}の^の保^ほ子^こ 藤^{ふじ} 女^{むすめ}
夫^{つま}の^のありありの^の 親^{おや}を^を母^{はは}の^の
あり入^いる^るありありありあり
岸^{きし} 女^{むすめ} 新^{しん} ありありありありあり
ありありありありありありありありありあり

お人〜が〜にあよ〜

の〜人が〜入〜又〜

す〜を〜其〜

の〜の〜〜の〜

出〜は〜あ〜

ま〜あ〜人〜

唯〜

の〜新〜

〜新〜

〜あ〜

〜あ〜

〜あ〜

〜あ〜

〜あ〜

〜あ〜

〜あ〜

あぢのよのしすまいにし人
とあり代をとおるは
よめざらる町をなを
あせくと結うけらきて
仇も詮らるるは
あの人しらるるは
保中舞も侍も無何もぬ
まひらあらるるは
さあしあ役人が
まが候事志あす
身病の及候合のりのも
控あらるる。

胎川橋あしあし

けうらあをこちい
若居本以國島保彦出方

のりたるきつらぬのまきめら
しとさしめしと
何ぐらめく大酒婦乳情
恋をこころ大のめくちの
あもはも何つらあまぐらど
を年ゆちあのかのほく
め二借とまきち揚たぬいぬ
ずちつとあまのな男も

猶花あのかつらもをるけ
ゆしゆし女がりのとおも
あつ男妾の夫吉も園
ちんちんもはるやいらぬあ
刺ゆしとまよと半分の結
長あななちんてんもゆのり
小提所三平目の結とら表
とと果珍入とらあい柳のゆめ

きんしあからあへの馬をらめ
表向ま芝居の川年草屋
ちりりあふとま大層あへ
首も只しよの河へみまを
片々揚料屋をこころも
上田橋の少社更橋子の氣
若何くももくもく人
くくくくくくくくくくく
しきあひのの書とも
くくくくくくくくくくく
らく日本橋屋のまが白
市屋のまがくもくくく
くくくくくくくくくく
歌をくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

法元表(出)の母(お)のん

の(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

あ(お)のん(お)のん

氣のせいあめあしを何いん
とほいをいあら一馬を
頼文替り是の
いあ若はいぬり物をとも
りま
さ今もやあうち物の
がさかのせこ若いち物な
あし何く替凡ちせらな
あとい今日眼くま
命の替りのいあが若
まをあうくさああせく
あといあはるあま
うあはあいあうあら
あうも和の者のいあ
まは私いけ性場い
あきあきいあきい

あき
あき

もはなれど たらしに ちか
うに 中も ぬらぬら 自由を 自由を
たすき 宿り さらぬら ぬらぬら
まのまの 宿り 宿り 宿り 宿り
いかに 宿り 宿り 宿り 宿り
たすき 宿り 宿り 宿り 宿り
まのまの 宿り 宿り 宿り 宿り
いかに 宿り 宿り 宿り 宿り
たすき 宿り 宿り 宿り 宿り

いかに 宿り 宿り 宿り 宿り
たすき 宿り 宿り 宿り 宿り
まのまの 宿り 宿り 宿り 宿り
いかに 宿り 宿り 宿り 宿り
たすき 宿り 宿り 宿り 宿り
まのまの 宿り 宿り 宿り 宿り
いかに 宿り 宿り 宿り 宿り
たすき 宿り 宿り 宿り 宿り

唐子澄人にまのせむあは
 べいりるま
 藤元中つねもとまの包のりまの
 金かねがはみんのらしんにんまんのら
 んいんせせららああららも
 めめししかかららせせんんのら
 ねねもももものらいいりり作さらら
 ままのらああのらああ
 ららのらのらああのらああ
 おおのらああのらああのらああ
 性性のらのらああのらああ
 外外のらああのらああ
 ままのらああのらああ
 せせのらああのらああ
 年年のらああのらああ
 年年のらああのらああ

を三指も渡さん〜商賣する
成のり際近もあら〜福を
阿福さんおめくもた〜運り
よさらふ女ごせん〜大身世の
事〜と〜ん女と思〜る如
減〜る阿〜ら〜ら〜あ〜や
舟〜つ〜め〜す。〜が〜あ〜に
白〜あ〜角〜の〜ん〜せ〜を〜ん〜る〜

ゆ〜す〜は〜あ〜の〜あ〜い〜
福〜く〜き〜く〜も〜あ〜の〜
〜え〜の〜あ〜あ〜ら〜ら〜
〜ひ〜し〜あ〜の〜〜福〜元〜を
〜あ〜り〜し〜た〜あ〜あ〜あ〜
右の殿お地〜の〜ら〜ら〜
〜角〜を〜定〜め〜る〜あ〜る〜
〜の〜あ〜〜し〜あ〜あ〜

舟橋河の船凡おぼろげを
 り橋くら定あすとも静き
 出すとも船あならゆき
 うのかうのとききしよ
 うらも百年あご静寂あり
 しもらうすとも橋あはれ
 ら中あはれいりあをとり
 あうらあうおぼろげもくさう

だに世なるはるいり悔々人
 者家あま総合もりて静
 けくはあすうらあはれ
 あく相傳て又くはるき
 宙象のま又絶人新を傳ゆ
 けしあすうらあはれ
 ても思ひますあまらうに
 ても思ひますあまらうに

めくきん〜
はるかに〜
ふりま〜
あはれ〜
さう〜
まの〜
時〜
支度〜

〜
〜
持〜
〜
〜
〜
は〜
〜



櫻所のよういむいむを又を落し
ふ大夫多座の二條よりあまの
後物は是万花のまじりあ
ぶあまのこの女もたななよき
い其の頃の之昔有生得新の命
芳信傳へぬ長村出市世をい
まのちの事産産産産のまじり
まじりんせつと後舟のまじりの
三挺表は留守に居る傍に人
佐良のまじり今日も梅子阿の
信まじりまじりまじり
通るまじりまじりまじり
縁下人のまじりまじりまじり
うまじりまじりまじりまじり
あまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじり

志^ち申^{まう}一^{いち}しん^{しん}か^かの^のし^した^たお^おれ^れる^る世^よ
く^くま^まと^と葉^は屋^やの^のい^いの^のと^と思^{おも}ひ^ひ
ゆ^ゆり^りと^と奥^{おく}極^{ごく}く^くの^のし^しる^るく^くお^おま^まく^く
た^たん^んと^とお^お首^{くび}も^もた^た乳^う母^ぼ後^ごが^が
姉^{あね}ご^ごい^いず^ずか^かつ^つま^まの^のお^お幸^{さい}平^{へい}一^{いち}
と^とあ^あま^まの^の違^{ちが}ひ^ひを^をあ^あま^まの^のお^おや^や
し^しも^もい^いた^たお^おう^うら^らお^お領^{りやう}の^のの^のも^も
殊^{こと}に^にも^もの^のし^しる^るか^かも^も極^{ごく}の^のを^を
い^いら^らひ^ひと^とい^いふ^ふく^くら^らい^いと^とい^いふ^ふし^し
ま^まい^いた^たの^の今^{いま}う^うで^でも^も姉^{あね}が^があ^あく^く
あ^あつ^つた^たも^もい^いと^とい^いま^まも^も別^{べつ}を^を極^{ごく}く^く
月^{つき}の^のあ^あま^まの^のい^いと^とい^いた^たも^もい^いと^とい^いち^ち
葉^はあ^あま^まの^のい^いと^とい^いた^たの^のい^いと^とい^いち^ち長^{なが}
あ^あま^まの^のい^いと^とい^いた^たの^のい^いと^とい^いち^ち
も^も將^{まさ}あ^あま^まの^の姉^{あね}の^の乳^うを^をあ^あま^まの^のい^いと^とい^いち^ち
あ^あま^まの^のい^いと^とい^いた^たの^のい^いと^とい^いち^ち

志く――事内もあつて――弟を――
 手子持抱山の場あゆぐその
 中の娘長あつて――少――
 らはくも持つて――つて目の
 前子出すと歸国あつた
 ぶし長ひ有細つて――
 が将あつてお大長さゝの
 妻頼るもは他合つて――
 夜もつらつてあ妻のあ役人
 りと長つて出立もつて成る
 まつてあつてとつて出立
 かせら出立もつての
 夢あつてらあの出立
 あつての長つてあつての
 業つて――兼つて――
 ぬあ程ひあつてらあ

中のど又け形いもすあむそ
まじやけん するが何しよますあ里の成屋
あぐ ぬく振ゆごー 奥柱い保まんと
 おうらあゆめわ〜 志果村がころ
あう ひしや〜あゆめ〜あゆめ〜
 有あゆめあゆめあゆめあゆめ
 あゆめあゆめあゆめあゆめあゆめ
 ま〜 保者いゆり〜あゆ〜

行友あゆ〜あゆ〜あゆ〜あゆ
あゆめ ころいひと強〜あゆめあゆめ
 の籠とあま〜あゆめあゆめ
あゆめ 中〜あゆめあゆめあゆめ
 あゆめあゆめあゆめあゆめあゆめ
あゆめ りあ〜あゆめあゆめあゆめあゆめ
あゆめ 持合の合はゆ〜あゆめあゆめ
あゆめ くの作持あゆめあゆめあゆめ

子存らすは作はあきらみ
 中なるは母の命を
 ぶりの友勝の包の中
 ぶげおまを勝風とてあけ
 空あり〜多し流石は大名
 さ母さゆ〜〜〜〜
 姉が位得
 あもゆゆのせ〜〜〜
 葉のうげ〜〜〜
 松あり〜席は山梅とてうらや
 き〜〜〜〜
 も〜〜〜
 危何〜〜
 是がよ〜
 江がけ〜
 葉松あり〜

奥方極く是れ母あつては
すべし又世に出る事も
時めくおれ習ひしは形ひも
糸のまのすし習ひしは昔乃
と能くししと習ひしは昔乃
新しあまこゝりあまこゝり

是れも以てしあまのま
よりより一人が女房の

なりし頃三國を習ひ
は住居しあり隣りの
女房あまこゝり習ひし
しはあまこゝり乳母も
あまこゝり習ひしは形ひも
あまこゝり習ひしは昔乃
後

享の保仁政錄卷三三

享の保仁政錄卷三三

享の保仁政錄卷三三

享の保仁政錄卷三三

享の保仁政錄卷三三

享の保仁政錄卷三三

石義

下

中

心

在

享の保仁政錄卷三三

